



光風緑 Hannan

2017年 9月

日本医療機能評価機構認定病院

〒599-8263 大阪府堺市中区八田南之町277番地 ☎(072)278-0381 FAX(072)277-2261 URL http://www.hannan.or.jp

理念 愛のところで医療に奉仕を 和のところで総力一致を 励むところで創意工夫を

はんなん 夏祭り 2017



12:00 模擬店販売開始
やぐらの横ではOTのカラオケ大会も開催
14:50 ShowTime:紙芝居&コンサート
紙芝居:デイケア
コンサート:シャンテ&迷探偵はんなん
18:00 盆踊り
19:00 花火でフィナーレ

8月25日(金)、患者さんはじめ、地域の方や職員の家族など多くの方にお越しいただき、はんなん夏祭りが無事に終了いたしました。

照り付ける太陽が、夏祭りを演出する熱い暑い一日、前日から35℃を超える猛暑の中でもみんな元気いっぱい! 模擬店には行列ができ、夕刻からの盆踊りでは浴衣を着せてもらったかわいいお子さんが踊る姿も見られとても盛り上がりしました。

当日は正午から模擬店の販売を始めましたが、午前中から会場となったE棟前は活気と熱波に包まれていました。今年は暑い中にも涼を感じられるよう、ミストシャワーが登場し、午後の暑さ厳しい折には多くの方がミストの下へ集まる姿も見られました。途中、管理部エコチームからエコ啓発にうちの配布もあり、喜んでいただきました。

午後からはデイケアメンバーさんのナレーションとアフレコによる紙芝居、今年のコンサートは院内選りすぐりのバンド「迷探偵はんなん」の演奏で盛り上がりしました。メインのシャンテさん(盲目の歌手熊野さんと手話ボーカルの知子さん)は今年も楽しいコンサートを披露してくださり、みんな体を揺らして楽しんでいました。盲導犬マッキーも子どもたちに大人気で、ShowTimeを盛り上げました。

17時を過ぎるとやぐらの周りではお囃子が流れ、陽もかげる頃から盆踊りが始まりました。地域の方もお子さん連れでたくさんお越しになり、楽しんでいただきました。19時からは花火の打ち上げが始まり、夜空に色とりどりの花を咲かせていました。大きな歓声の中、2017年、今年の夏祭りを無事に終えました。

基本方針

人権を重んじ、患者さんやご家族の「こころ」に寄り添ったやさしい医療を提供します。

質の高い医療を提供するため、すぐれた医療人を育てます。

「光と風と緑」にあふれた、安全で快適な療養環境を提供します。

地域の拠点病院として、保健・医療・福祉に貢献します。

信頼される医療サービスを提供するため、経営の健全化につとめます。

2016.4.1 改定



院内には咲いていませんが、周辺の道路わきや花壇によく見かけます。夏の終わりには花屋さんにも色とりどりに並びます。秋を感じるコスモスを探しながら散歩するのもいい季節ではないでしょうか。

コスモス 秋桜

- 菊(きく)科。
- 開花時期 7/25頃~12/10頃
- 原産地メキシコ、イタリア人が1870年代に日本に持ち込んだのが最初という説がある。秋の代表花だが、早いものは夏のあいだから咲き始めている。
- 「秋桜」の字は、主に秋に咲き、花卉の形が桜に似ているところからの和名。
- 葉は線のように細いが、台風などで倒されても茎の途中から根を出し、また立ち上がって花をつけるほど強い。

周辺地域のだんじり祭り開催によるマイクロバスの運行について

平成29年10月6日(金)・7日(土)・8日(日)の3日間、病院周辺および津久野駅、深井駅周辺で「だんじり祭り」が開催されます。

病院にお越しの皆様にはどうぞお気を付けてお越しいただきますよう、お願い申し上げます。また、当日は交通規制もされ、病院マイクロバスの運行においても駐車場所の変更など予定しておりますのでご案内申し上げます。

【津久野駅】

津久野駅前ロータリーは規制のため、一部マイクロバスの駐車場所を変更いたします。駅前前のいつもの駐車場所には黄色のベストを着用した職員が立って、駐車場所の誘導を行います。時間帯は12:30~15:30、18:00以降の便をご利用の方は駐車場所が変更となっています。また、交通規制によりこの時間以外にも駐車場所が変更となる可能性もありますが、その際は職員が誘導いたします。

【深井 便】

マイクロバス、便数の変更、停車位置の変更などはございません。ただし、周辺道路の規制に関して、到着、出発に遅れが生じることが見込まれます。ご協力の程お願い申し上げます。

■外来診察表

外来診察時間/9:00~12:00(受付は11:30まで)平成29年9月現在

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
1 診	黒田	土井	濱田	横田	黒田	横田
2 診	花房	秋田	松島	戎	横井	横井
3 診	松島	島本	植田	白銀	茶谷	植田
4 診	田中	亀田	岩井	加納	広田	岩朝
5 診	佐野	山田	川村	宮里	秋田	松村
6 診	柴田	長谷川	正路	吉川	小林	宮里
7 診	山本	久保	小深田	橋本	久馬	小深田
8 診	熊取谷	大矢	西村	河野		熊取谷
9 診	上坂	柏木	後藤	大浦	土井	安藤
診(心1)	清水		中井	山下		

*医師の急な都合により、変更・休診となることがございますので、予めご了承ください。
<ご紹介いただく際は予めのご連絡をお願いいたします>



診療科目

精神科/心療内科/児童精神科/内科/歯科/小児科/放射線科/神経内科

病床数

- EPU(精神科救急)病棟 168床(C1,H2,H3病棟)
- 児童精神科病棟 25床(D1病棟)
- 亜急性期病棟 120床(B2,C2病棟)
- 精神科急性期治療病棟 111床(D2,E2病棟)
- メンタルケア病棟 35床(E3病棟)
- 老年期精神疾患病棟 60床(D3病棟)
- MPU(精神科合併症治療)病棟 51床(H1病棟)
- 精神療養病棟 60床(F3病棟)
- 認知症治療病棟 60床(F2病棟) 計690床

関連施設ご紹介

- 認知症疾患医療センター ☎072-278-0233
- 訪問看護ステーションふれあいサテライト「浜寺石津」☎072-279-1631
- グループホーム あんずの郷 堺市中区八田北町309 ☎072-278-2233
- 地域生活支援センター ゆい 堺市中区深井沢町3324 FUKAI ビル1F ☎072-277-9555
- 堺市発達障害者支援センター アプリコット堺 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ内3F ☎072-275-8506
- 医療福祉相談室(直通) ☎072-278-3768
- 就労移行支援事業所 エンワーク 堺市中区深井清水町3544-3 ☎072-270-3318
- 居宅介護支援事業所 ケアサポートセンター 杏 ☎072-278-0488

アプリコット堺 講演会

青年期・若い成人期の発達障害

～大学での支援の現状と社会への巣立ちに向けた取り組み～



8月1日(火)サンスクエア堺サンスクエアホールにて、甲南大学文学部教授・学生相談室専任カウンセラーの高石恭子先生をお招きし、「青年期・若い成人期の発達障害～大学での支援の現状と社会への巣立ちに向けた取り組み～」と題してご講演いただきました。

当日は、当事者、学校関係者、地域の支援者、又阪南病院の職員の皆さんなど150名程の方々にお越しいただきました。特に今回は夏休み期間中ということもあり、多くの小・中学校の先生にご参加いただきました。講演では、大学における支援の実情や発達障害のある学生支援特有の課題について先生のご経験をもとに平易な言葉でわかりやすく説明して下さいました。参加者からも「大学での支援がよくわかった」、「発達障害のある人を取り巻く環境や具体的な対応がわかりやすかった」等のご感想をいただきました。

発達障害の障害特性は個々によって様々で、悩みや課題は十人十色です。それゆえ、当事者・家族や支援者などそれぞれが直面している困難さによって発達障害者支援センターに対する期待やニーズは異なります。今後、発達障害のある方が抱える困難さやニーズを理解し、幅広い啓発に取り組んでいきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。(堺市発達障害者支援センター アプリコット堺)

今年も各部署の、研究や取り組み成果を発表する研究発表会が開催されました。今年4部門、10の部署からエントリーがなされました。年を重ねるごとにプレゼンテーションの技術も上がり、評価をつけるのが難しいといった発表でした。内容は次第をご覧ください。そして今年右のような結果となりました。

第13回 院内研究発表会 9月9日(土)

平成29年度研究発表会

開会挨拶 9月9日(土) 多目的ホール 14:00～

第一部 14:00～15:00

- 外来による退院前相談実施からみえてきたもの 外務 松原和彦 土屋由美 山内弘美
- フットケアを通して見えてきたもの ～意識調査アンケートの結果から～ 02 病棟 高山和雄
- Microsoft ExcelのVBAを利用したリハビリ記録システムの構築 医務 伊藤由之
- 就業・学習対策による就業収入アップをめざして 医務部 丹波堂
- 経営学を受取る患者の排せ臭コントロール ～患者のQOLの向上を目指した1年間の取り組み～ (休廊(3分)) 03 病棟 西川英

第二部 15:00～16:00

- 認知症を支えるための地域づくりを目指す ～見える事例検討会を通して～ 認知症看護センター 清水由美子
- 療養環境改善への取り組み ～病棟内の排せ臭軽減に向けて～ 01 病棟 高野真子
- 感染対策へのスタッフの意識の変化について ～ウェルフォーム改善への取り組み～ E2 病棟 本本健太 吉花明彦 加藤佳典
- スーパー救急病棟での境界性パーソナリティ障害患者に対する治療的看護の考察 ～文献研究と看護士の意識調査から～ 10 病棟 坂本真美
- 患者の権利擁護の視点からみる阪南病院の退院・処遇改善請求の現状 医療福祉相談室 高木洋行

閉会挨拶 17:00 表彰・懇親会

グランプリ

「患者の権利擁護の視点からみる 阪南病院の退院・処遇改善請求の現状」 医療福祉相談室

準グランプリ

「Microsoft ExcelのVBAを利用した リハビリ記録システムの構築」 診療部整形外科
 「療養環境改善への取り組み ～病棟内の排せ臭軽減に向けて～」 看護部D3(老人)病棟



当院は敷地内完全禁煙です

医療法人一尚会 いちメンタルクリニック

こころの病、身体の病に関わらず、やはり早期発見、早期治療が治療の大原則です。決して、ひとりでは悩まずに、わたしたちにご相談ください。

地下鉄、近鉄線「日本橋駅」すぐのところに、いちメンタルクリニックといちメンタルクリニック日本橋の2院で診療を行っています。患者様は10代から40代が全体の80%を占めるクリニックです。気兼ねなくご予約ください。

- 住所 〒542-0073 大阪府大阪市中央区日本橋1-17-17 ピカソ日本一ビル2F
- 電話 06-6213-7830
- HP <http://1mental-clinic.com/>
いちメンタルクリニック日本橋も上記URLでご覧いただけます。
- 最寄駅 地下鉄千日前線、堺筋線、近鉄難波線 「日本橋」駅すぐ
- 診療科 心療内科、精神科、児童・思春期精神科、カウンセリング、訪問診療

Dr.情報 理事長・院長 一岩 智明 先生

☆経歴: 奈良県立医科大学卒業、奈良県立医科大学附属病院臨床研修医、杏和会 阪南病院、恒昭会 青葉丘病院、平成23年 医療法人一尚会 いちメンタルクリニック 開院
 ☆資格: 精神保健指定医、日本精神神経学会精神科専門医

医療機関紹介 renkei bookmark



診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前 10:00～13:00	○	○	○	○	○	◎	—	—
午後 15:30～19:00	○	○	○	○	○	—	—	—



E2(精神科急性期治療) 病棟工事

9月11日よりE2病棟の工事が始まりました。当院は13病棟、690床の精神科病院ですが、日中錠しない病棟が2病棟(メンタルケア病棟、精神科急性期治療病棟)ありました。しかし、任意入院の方は全入院患者の3割を切り、閉鎖処遇での治療が望ましい方も多いことから、そういった患者さんにも対応できるよう、開放の急性期治療病棟を閉鎖いたします。そのため、工事は保護室の増床と総室の拡張、風呂の増設、個浴をシャワー室にするというものです。工事に際しては、現場に囲いをし安全第一で行なっていきます。

工期は水回りの工事でもあり1ヶ月超を見込んでいます。患者様の生活に大きな不便を生じないように、配慮しつつ進めてまいります。

どうぞご理解くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



工事では、病室を拡張するために、病室の前にあったアルコーブ(たまり場)を撤去しています。



第34回 児童精神科領域研究会



8月31日(木)、院外からクリニックや小中学校の先生方、約40名の参加をいただき、今年度1回目の児童精神科領域研究会を実施いたしました。

子どもの療育やケア、治療の一助となればと2011年より開始し、今回第34回を迎えました。お越しになる方も医療機関、教育機関、行政の方など多くの方にお越しいただき、児童精神科においては全国的にも著名なドクターの講演など行っております。今回は、院内で当院医師による講演を行いました。内容は次の2題。

「インターネットの普及と依存 精神疾患との関連について」 精神科 長谷川 医師
「不登校について」 副院長 横田 医師

ネット依存に関しては、インターネットの普及や依存の研究が増えており、成人ではADHDとの関連性が指摘されているなどの現状の説明と、児童領域の研究は少ないものの、成人同様にADHDとの関連性も指摘されるなど詳しくお話しになりました。外部の来院者からは、依存気味だと感じていても、ネットをしていると落ち着いている子どもから取り上げることができず、どう対応したらいいのかなど質問が出ていました。

不登校に関しては、その概念の変遷や、発達障害との関係、そして経過(始まり方)など症例を通し解説されました。

次回、第35回は、会場を外に移して講演会を行います。研究会は前述したように医療機関、行政、教育機関などで子どもの治療、教育、ケアを行っておられる方を対象にこれからも実践してまいります。ぜひ、多くの方にお越しいただけば幸いです。

第35回 児童精神科領域研究会

「子どもの拒食症と治療について」

山崎 透 先生
静岡県立こども病院 こころの診療センター長

日時 **11月24日(金) 14:00~16:30**

場所 堺市産業振興センター イベントホール
堺市北区長筒橋町 183番地5

無料

対象 教育・行政・医療職・児相等、子どもの医療や教育で執務される方

山崎透先生ご挨拶：
静岡県立こども病院こころの診療センター長として、長年児童のこころの問題に携わってこられ、多くの講演や執筆活動をされている著名な精神科医です。先生はご自身の多岐にわたる業務の傍ら、児童青年精神医学会災害対策本部部長として、厚生労働省からの命を受けて、児童青年期の患者フォローの観点から日本大震災復興活動に積極的に携わって来られました。先生は現在、全国児童青年精神科医療協会代表、日本児童青年精神医学会代議員を務めておられます。

参加申込み(FAX:072-278-1887) 後日参加票をFAXにてお送りいたします。

ご所属	
ご住所	
TEL	FAX
ご芳名	ご芳名
ご芳名	ご芳名

複数名ご参加いただける場合は、全てのお名前をご記載ください。
問い合わせ：児童精神科領域研究会事務局 池田・小田 (072-278-0381)

平成29年度児童精神科領域研究会

当院では、平成23年、児童精神科医療発展の年より、この領域への寄与と幅広い連携関係の構築を願い、継続して「学びの場」「情報共有の場」としての児童精神科領域研究会を開催まいりました。近年は年2~3回の開催ですが、教育機関の先生方などからの問合せも多く、それらご要望にお応えするためにも開催を続けていきたいと考えております。平成29年度開催について、現状のところをご報告させていただきます。本年も病院全体のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

第34回 講演会
平成29年8月31日(木) 14:00~16:30
講師/講師 「不登校について」 横田 伸吾先生 (精神保健指定医、日本児童青年精神医学会認定医)
「インターネットの普及と依存、精神疾患との関連について」
長谷川 雅文先生 (精神科医師、児童精神科担当)

場所 阪南病院内多目的ホール

第35回 講演会 or 症例検討会
平成29年11月24日(金) 14:00~16:30
講師 山崎 透 (やまさきとおる) 先生
静岡県立こども病院こころの診療センター長
場所 堺市産業振興センター (堺市北区長筒橋町 183番地5)
タイトル 「子どもの拒食症と治療について」

第36回 講演会
平成30年1月13日(土) 14:00~16:30
講師 田中 実 (たなかみゆ) 先生
兵庫県立ひょうごこころの医療センター院長、精神科救急センター長
場所 阪南病院内多目的ホール
内容 講演も症例検討会

第37回 講演会
平成30年2月10日(土) 14:00~16:30
講師 岸田 謙 (はらだゆずる) 先生
長野県立こころの医療センター 暫く副院長
場所 未定

児童精神科領域研究会事務局

大規模地震時医療活動訓練&阪南病院災害対応訓練

平成29年7月28日(金)・29日(土)

大阪府が中心となって全国規模で実施された大規模地震時医療活動訓練は、7月28日(金)12:00発災というシナリオで行われました。災害想定としては和歌山県南方沖でマグニチュード9.1、最大震度7の地震が発生したというもので、大きな被害が出ているという状況です。また、DMAT、DPAT併せての訓練となり、7月29日(土)発災翌日には当院からDPAT隊を派遣するという想定での訓練でした。当院での訓練は、「①先遣隊DPATの派遣」「②当院受傷者のDMAT要請」「③EMIS(広域災害救急医療情報システム)入力」「④被災病院からの患者受入れ」の4点。

訓練に際しては、本部機能に絞った当院独自の訓練を災害対策会議メンバー中心に行いました。実際、7月28日(金)、メンバーは12:00発災を起点として、災害対策本部を立上げ、各部署(指定全21部署)からの被災状況報告書をもとに被災の状況や空床の確認など行いました。そして空床数や建物、水道、電気、ガスも被害、異常なし等の情報をEMISに入力し、その後大阪府のDPAT要請に沿って、翌日の派遣を決定するまでを行いました。

翌日29日(土)はDPATの派遣、災害拠点病院で当院DPATチームが活動しました。そして訓練④被災病院からの患者受入と同時に、堺市からDMAT訓練への協力依頼として、②当院受傷者のDMAT要請という役割がありました。堺市からの模擬患者は、意識レベルの低い(JCSII-20)設定のようで、会話ができない状態で戸惑いました。しかし、バイタルチェック、診察が行われ、リチウム中毒患者発生として、DMATに搬送要請をしました。この時、阪南DPATチームは災害拠点病院で、南大阪の病院からの情報に応答しつつ、対応や支援を検討し、全国から集まったDPATチームと連動することに奔走されていたということでした。院内では連絡がない事に焦りながらも、先のリチウム患者のお迎えで宮崎DMAT隊が到着するなど大阪府の大規模訓練に沿って当院の訓練も進んでいきました。被災病院から、福島DPATの先導で受入患者45名(実際は模擬患者2名)が到着したのは16:16。タイムアップのため予定していたトリアージ訓練ができませんでした。しかし私達には、いい経験と訓練であり、参加者からの意見を次に生かしたいと考えています。

(災害対策会議)

